

カルチャー

~Culture~

◆ 神保町古書店街

神保町といえば世界一とも言われる古書店街！神保町について社会的、歴史的に鳥瞰した図書『神田神保町書肆街考』には、「世界にも類を見ない」「ユニークな「古書の街」」と書かれている。今年 10 月 28 日～11 月 3 日まで、3 年ぶりに神田古本まつりが開催される。古書の掘り出し市に加えて希少書籍展示会やトークライブなど、神田神保町が総力をあげて開催するイベント。

📖 神田神保町書肆街考、小説家・逢坂剛、森崎書店の日々、古本食堂、映画のなかの御茶ノ水、東京人 2002 年 10 月号 特集：神田神保町の歩き方 part3、東京人 1998 年 06 月号 特集「神田神保町の歩き方」、JIMBOCHO 古書店 MAP2023(フリーペーパー)、おさんぽ神保町(フリーペーパー)

1. 一誠堂書店

明治 36(1903)年創業の老舗古書店。和洋の文科系古書全般を幅広く扱う。貫禄ある佇まいの店舗ビルは昭和 6(1931)年に完成したもの。一誠堂の出身者たちが古書店の創業者、経営者となって神田古書店街が栄えることとなった。

📖 古書肆 100 年：一誠堂書店、紙魚の昔がたり 明治大正篇・昭和篇、神田神保町書肆街考、東京人 1998 年 06 月号 特集「神田神保町の歩き方」、一誠堂古書目録

2. 矢口書店

映画・演劇・戯曲・シナリオ専門の古本屋で、創業 100 年以上の歴史がある。落語関連も充実している。店外の棚には専門分野以外の本も並び、掘り出し物があると評判。

📖 矢口書店古書目録

3. 八木書店

一誠堂書店出身者が創業、神保町の代表的書店。出版、古書稀覯本の買取・販売、新刊取次、「日本古書通信」の発行など、“書物を商うこと”を多岐にわたって行っている。

📖 日本古書通信、紙魚の昔がたり 昭和篇、神田神保町書肆街考、八木書店古書目録(古典文学特輯・近代自筆物特輯)、八木書店新蒐品目録

4. 東京古書会館

神田古本まつりの併催イベント(古書即売展やトークイベントなど)が開催される会場。ふだんは古書組合会員が参加できる古書市場(交換会)が開催されている。

📖 定価のない本

5. 三省堂書店

古書店として明治 14(1881)年にスタートした。神保町の本社・本店は街のランドマーク的存在。建て直しのため今年 5 月 8 日に一時閉店、建物に掲げられた巨大なしおり「いったん、しおりを挟みます。」のコピーが話題になった。現在は近くの仮店舗で営業中。

📖 三省堂書店百年史、三省堂の百年、古本食堂、おさんぽ神保町(フリーペーパー)



6. 東京堂書店

独自のラインナップでファンも多い新刊書店。幅広いジャンルのイベントを開催し、新規顧客の開拓にも意欲的。カフェが併設されている。

 東京堂百二十年史

7. すずらん通り

10月29・30日に開催される(3年ぶりの開催!)神保町ブックフェスティバル会場となる商店街。江戸時代には隣の「さくら通り」とあわせて「表神保小路」と呼ばれ、この辺りのメインストリートだった。

 すずらん通りベルサイユ書房

8. 本と街の案内所

赤い看板が目印の神保町インフォメーションセンター。書店や飲食店など案内してもらえる。自分で情報を検索できる端末もあり。

9. PASSAGE by ALL REVIEWS

あなたも本屋になれる場所。今年3月にオープンした共同書店。本を愛する人なら誰でも棚を借りて本を販売できる。書棚にはフランスの实在の通り名がつけられ、パリのパッサージュのような内装も楽しめる空間。書評アーカイブサイト「ALL REVIEWS」の参加書評家や作家の棚もある。『神田神保町書肆街考：世界遺産的“本の街”の誕生から現在まで』の著者でもある仏文学者の鹿島茂さんによるプロデュース。

 神田神保町書肆街考、おさんぽ神保町(フリーペーパー)

10. 猫の本棚(cat's bookshelf tokyo)

今年1月にオープン、アンティークなデザインでレトロ感が落ち着く、神保町の隠れ家的なシェア型本屋。本好き、映画好き、猫好きのオーナーが運営し、猫グッズも販売、売り上げの一部を猫の保護活動に寄付している。店主は映画評論家・監督の樋口尚文さん。大島渚監督が生前に愛読した蔵書の一部を「大島渚文庫」として展示しており話題を呼んでいる。

 大島渚全映画秘蔵資料集成、おさんぽ神保町(フリーペーパー)

11. 猫本専門 神保町にゃんこ堂

姉川書店内にある今年10年(ニャン)目の猫本専門店。田中要次さんを店主役にドラマ化もされた。600種類/2000冊以上の猫本はすべて立ち読みOKで、じっくり猫本を選ぶことができる。

 猫本専門神保町にゃんこ堂のニャンダフルな猫の本100選、東京ねこさんぽ

12. 『ガロ』編集部

月刊漫画雑誌『ガロ』を刊行していた出版社「青林堂」があった場所。『ガロ』は白土三平の代表作「カムイ伝」を連載する場として1964年に創刊、前衛的な漫画雑誌として日本のサブカルを牽引した。水木しげる、つげ義春、佐々木マキ、ますむらひろし、杉浦日向子、赤瀬川原平といった数多くの個性派作家がここからデビューした。2002年に休刊、青林堂は現在渋谷区に移転している。

 神保町「ガロ編集室」界限、東京人 1998年06月号 特集「神田神保町の歩き方」。



13. 明治大学 米沢嘉博記念図書館

マンガ・アニメ・ゲームの複合的なアーカイブ施設「東京国際マンガ図書館」(仮称)の先行施設として開設された。明治大学 OB のマンガ評論家・米沢嘉博氏の膨大な蔵書を所蔵、学外者も利用できる。

 戦後少女マンガ史、戦後 SF マンガ史、戦後ギャグマンガ史、手塚治虫マンガ論

14. 千代田区立千代田図書館

千代田区の中央図書館。コンシェルジュによる地域案内やビジネス支援といったサービスも提供している。現在、展示「本と一緒に楽しもう！「鉄道と美術の 150 年」展」、「閉架書庫から出てきた本たち」を開催中。

 千代田図書館とは何か

15. 俎橋

地下鉄九段下駅付近、靖国通りにある日本橋川に架かる橋。江戸時代から存在しているとみられ、森鷗外の小説『雁』にも登場する。木の板を渡したような橋だったことから、その名がついたと言われている。

 雁

16. 山の上ホテル

川端康成、三島由紀夫、池波正太郎など多くの作家が書斎や別荘のように利用し、「文化人のホテル」として知られる。出版社の多い神田・神保町に近いこともあり、作家がカンヅメで執筆活動をするために泊まることもあった。アールデコ調のデザインが特徴、すべてレイアウトが異なる 35 室の客室を備える。

 山の上ホテル物語、映画のなかの御茶ノ水、
東京人 2002 年 10 月号 特集:神田神保町の歩き方 part3

17. 錦華小学校(現お茶の水小学校)

夏目漱石が卒業した小学校。近隣の小川小学校、西神田小学校と統合し、お茶の水小学校となった。校門脇の石碑には、漱石の最初の長編小説『吾輩は猫である』冒頭の一節「吾輩は猫である 名前はまだ無い」が刻まれている。

 吾輩は猫である

18. 学士会館

旧帝国大学出身者の親睦の場として作られた施設だが、レストラン、宿泊施設、結婚式場を備え、誰でも利用できる。昭和 3(1928)年竣工の旧館は関東大震災後に建てられたため、当時最新の耐震・耐火構造が採用された。趣のある重厚な建物は国の有形文化財に登録されている。

学士会館(東京大学発祥の地)

学士会館旧館の正面玄関脇には「東京大学発祥の地」の石碑が建っている。東京大学は、明治 10(1877)年に東京開成学校と東京医学校が合併して創設された。この地には付属機関の大学予備門(東京大学教養学部)もあり、漱石も学んでいたという。

学士会館(日本野球発祥の地)

今年には日本に野球が伝わって 150 年の年！アメリカ人教師ホーレス・ウィルソン氏が日本で初めて野球を教えた地として、学士会館の敷地内には、ボールを握る右手をかたどったブロンズ製モニュメントが建てられている。漱石が予備門時代に知り合った正岡子規も当時ベースボールにハマったようだ。

19. ニコライ堂(東京復活大聖堂)

漱石の小説『それから』の主人公がニコライの復活を語る場面に出てくる正教会の大聖堂。多くの文学作品や映画にも登場する。建築面積は約 800 平方メートル、緑青を纏った高さ約 35 メートルのドーム屋根が特徴。国の重要文化財。聖堂内の見学もできる。

 それから、ニコライの日記、ラスプーチンが来た、映画のなかの御茶ノ水、神田神保町書肆街考

20. 岩波書店

大正 2(1913)年に書店として開業、古本をメインに新刊図書や雑誌も扱っていた。お店の看板の文字は漱石の書によるものだった。翌年の漱石著『こゝろ』刊行以後、活発な出版活動を展開。岩波文庫、岩波新書、岩波少年文庫、広辞苑、日本歴史、日本古典文学大系など、数々の名著を出版し続けている。創業の地はその後、新刊書店「岩波ブックセンター」を経て現在、書店・喫茶店・コワーキングスペースの複合施設「神保町ブックセンター with Iwanami Books」となっている。

 本の世紀、物語岩波書店百年史、写真でみる岩波書店 80 年、こゝろ

21. 岩波ホール

ミニシアターの草分けとして 1974 年から様々な映画を発掘上映してきた映画館。今年 7 月 29 日、多くのファンに惜しまれながら閉館、54 年間の歴史に幕を下ろした。

 岩波ホールと「映画の仲間」、私のシネマライフ、私のシネマ宣言、心にひびく映画、加藤周一著作集 芸術における伝統と現代性、ミニシアター・ガイド、他、上映パンフレット

22. アテネフランセ文化センター

老舗語学学校アテネ・フランセの 4F 講堂で国内外のさまざまな映画を上映している団体。丘に建つアテネ・フランセの建物外壁は個性的なピンク色！設計した建築家の吉阪隆正による「アンデスに沈む夕陽」の色という指示で塗装されたといわれる。

 神田神保町書肆街考



23. 神保町シアター

昭和の懐かしい映画を中心に上映しているミニシアター。小学館が運営している。現在、特集企画「大映の女優たち～大映 80 周年記念セレクション～」を上映中(～11 月 4 日)。次回は「映画は社会を風刺する——辛口喜劇のススメ」(11 月 5～25 日)が予定されている。

24. 神保町よしもと漫才劇場

若手芸人が出演している、吉本興業運営の漫才・コント専門劇場。旧「神保町花月」。劇場と映画館の複合施設である神保町シアタービル内にあり、新しいエンターテインメントの拠点となっている。よしもとは、大正 11(1922)年～昭和 20(1945)年まで神保町で「神田花月」(旧「川竹亭」)という寄席を運営していた時代がある。

 寄席切絵図、わたしの寄席、寄席育ち、永井荷風、文人たちの寄席

25. らくごカフェ

神田古書センター5F にある「落語をテーマとしたカフェ」。落語の高座を常設しており、毎週火曜日に行われる「らくごカフェに火曜会」他さまざまな落語会を開催。また、落語に関する書籍・CD・DVD・落語家グッズといったアイテムの販売や、「落語の総合案内所」として、大小さまざまな落語会の情報を発信している。

